

信州山学マイスター 養成プログラム

第2期
受講生
募集

8/11 山の日 ~ 配信開始!

※10/31 までオンデマンド配信

信州は日本の屋根といわれる多くの山々を擁し、松本市は山岳の都「岳都」と呼ばれています。
このプログラムは、信州の山岳について多様な視点から理解を深め、地域の魅力を再認識し、地域の未来像を考える機会を提供することを目的としています。山を愛する方はもちろん、信州の歴史や自然、地域づくりに関心のある方ならどなたでも大歓迎です。

受講方法 自宅でいつでも学べる「オンデマンド配信」※インターネット上で、好きな時に動画を見る方法です

配信期間 : 2026 年 8 月 11 日 ~ 10 月 31 日

受講の流れ: 受講生には松本大学の YouTube チャンネルの URL を送付しますので、期間中に聴講してください。

講義時間 : 全5 講座 各 60 分 (期間中であれば 24 時間いつでも、何回でも繰り返し聴講できます)

受講料 10,000 円 (全5 講座セット: 講座の詳細は裏面参照)

お支払い方法等の詳細は、お申し込み後にメールにてご案内します



申込フォーム

申込方法 右記の申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください。



学校法人松商学園

松本大学・松商短大

お問い合わせ: 松本大学 地域連携課 〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL : 0263-48-7396 mail : sangaku_meister@t.matsu.ac.jp





「日本のスキーツーリズムはどのように変化してきたのか」

講師：呉羽 正昭氏（筑波大学山岳科学センター長・観光地理学）

1910年代のスキー移入後、爆発的に成長したスキーツーリズムは、1990年代半ば以降は停滞したものの、外国人の増加がその性格を変化させています。こうした動態について、受け皿としてのスキー場とも関係づけながら、長野県における課題も含めて紹介します。



「山岳と日本人の将来」

講師：手塚 友恵氏（公益社団法人日本山岳ガイド協会 理事）

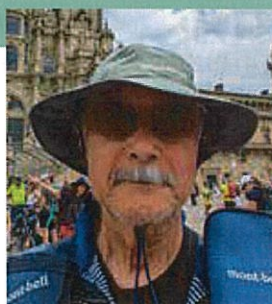
オーバーユース、訪日外国人のアウトドアアクティビティ、人口減少、クマなど、山岳環境に関わる昨今の課題や、その解決への道程について考察します。



「麓から望む山岳—地域の暮らしとツーリズム」

講師：中澤 朋代氏（松本大学 非常勤講師）

深い山々に囲まれた信州の暮らしには、日常の随所に山の要素が息づいています。その魅力に気づいた訪問者と管理者が共に紡いできた北アルプスの山岳文化も、独自の発展を遂げてきました。物見遊山にとどまらないツーリズムのあり方を視野に、中部山岳国立公園と松本を主な舞台とした地域づくりと産業についてお話しします。



「ヒュウの冒険、大自然と遊ぶ」

講師：小ノ澤 初男氏（山岳紀行エッセイスト）

私は学生時代に山と出会い、その後、世界143か国を訪れました。60歳で再び山に戻り、八ヶ岳へ移住。四国八十八ヶ所遍路やサンチャゴ巡礼を歩く中で、人との出会いと自然の大切さを学びました。人生は目的地を急ぐものではなく、自分の足で歩き続ける旅です。自然は人生を豊かにし、歩くことは人と人を結びつけてくれます。若い皆さんにも、自ら挑戦し、自分の世界を広げてほしいと思います。



「人々は火山とどうつきあってきたか - 明治・大正の新聞記事でみる焼岳噴火 -」

講師：入江 さやか氏（松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授）

上高地にある焼岳は明治から大正にかけて頻繁に噴火していました。当時の新聞記事をひもとくと、命知らずの記者が火口近くまで登って取材をしていました。長野県の各地に火山灰が降り、信州の主要な産業だった養蚕業へも影響が出ていました。もし同じような噴火が起きたらどうなるか。過去を振り返り、将来の噴火への備えを考えます。